

第20回EAROPH (東方地域都市計画住宅機構)世界大会における研究報告について

研究第二部 部長 山田 俊哉
主任研究員 今野 剛



1. はじめに

EAROPH (東方地域都市計画住宅機構) は、住宅の改善、新都市の開発を含めた都市計画の理論と実際、地域的、国家的又は国際水準における領域の計画について研究し、推進することを目的とした国際的な非政府組織である。

近年では2年に1度世界大会が催されており、本年度はマレーシア国サラワク州ミリ市で第20回の大会が開催された。この大会に、研究二部より山田と今野の両名が出席し、高規格堤防についての研究発表を行ったので、以下に概要を報告する。

2. 開催概要

日時：平成18年8月13～16日

場所：マレーシア国サラワク州ミリ市

主催：Eastern Regional Organization of Planning and Housing (EAROPH)

〔日本側事務局：国際住宅・計画問題協議会 (JASOPH)〕

- 内容：・EAROPH評議委員会 (聴講 - 下写真)
- ・研究報告 (発表 - 右上写真)
- ・現地視察 (右図)



EAROPH評議委員会の様子

開催地のミリ市は、東マレーシアの中央部に位置し、ブルネイ王国に隣接している。1910年にマレーシアで初めて油田が発掘されて以来「オイルタウン」と呼ばれ、石油産業により発展してきた歴史を持つ。

近年では、国連会議 (地球環境サミット) で採択された「Local Agenda 21」のパイロット都市として政府指定を受けた東マレーシア唯一の自治体である。また、市内のNGO団体と連携して環境保護、美化活動を通じて観光都市としてのイメージ向上を図っている。



ミリ市の位置

3. 研究報告について

今回のEAROPH大会では、【生活の質を高めるた

めの持続的な人間の取り組み】を統合テーマとして、サブテーマに次の5つが設けられた。

1. 持続可能な都市計画、管理及び統治
2. 持続可能な建物及び社会基盤整備
3. 持続可能な通信及び輸送体系
4. 持続可能な資源及び消費管理
5. 持続性に向けた政策、施策、財政及びその手段

発表はサブテーマごとのセッションで行われ、当センターからは、第2セッションで高規格堤防を題材にした研究報告を行った。



今野による研究報告の様子

4. 現地視察

現地では、ミリ市中心部から車で20分ほど離れた地域に事業中のニュータウンの視察を行った。当該地区は、ブルネイ国との国境地帯に広がるジャングル内に位置する約1,300haの地区である。

そこに人口10万人を収容する20,000戸の住宅団地を造るという計画であり、多摩ニュータウン計画 (総面積約2,890ヘクタール、居住計画人口約28万人) と比較できる大きな計画であった。



開発前のジャングル



ニュータウンの完成イメージ

5. おわりに

大会のキーワードである「Sustainable (持続可能な)」は、これからの都市開発、地域開発にとっても欠かすことのできない考え方であり、理念である。高規格堤防の研究発表については諸外国からの参加者も興味深く聴講しており、有意義な参加であったと考える。

最後になりましたが、参加各国における技術協力を継続し、社会資本整備の充実を図るため、今後も微力ながら貢献できることを願っております。